

平成 28 年度 第 1 回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成 28 年 6 月 1 日 (水)
開会 午後 3 時 00 分 閉会 午後 4 時 10 分
- 2 場 所 志布志市役所 本庁 2 階 庁議室
- 3 協議内容
(1) 確かな学力の定着に向けた取組
・タブレット導入, ICT 支援員配置について
・コミュニティ・スクールモデル校について
・小・中一貫教育の研究について
(2) その他
- 4 出席者 (出席構成員)
- | | |
|-------|-------|
| 志布志市長 | 本田修一 |
| 教育委員長 | 松原治美 |
| 教育委員 | 飯野直子 |
| 教育委員 | 樽野眞一 |
| 教育委員 | 島津陽亮 |
| 教育長 | 和田幸一郎 |
- (事務局)
- | | |
|--------------|------|
| 副市長 | 外山文弘 |
| 副市長 | 岡野 正 |
| 総務課長 | 武石裕二 |
| 総務課長補佐 | 岡崎康治 |
| 総務課人事厚生係長 | 黒石直也 |
| 教育総務課長 | 溝口 猛 |
| 教育総務課長補佐 | 鎌下秀樹 |
| 学校教育課長 | 福田裕生 |
| 学校教育課参事兼指導係長 | 福留健之 |
| 学校教育課参事 | 梶原 淳 |
| 生涯学習課長 | 樺山弘昭 |

5 会議の経過

午後3時00分 開会

○ 開会

【岡崎総務課長補佐】 皆様御起立ください。

ただいまから、平成28年度第1回志布志市総合教育会議を開催します。一同礼。御着席ください。

改めまして、本日進行を務めさせていただきます総務課長補佐の岡崎でございます。よろしくお願いいたします。

今日は、御多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは早速ですが、会次第にそって進めさせていただきます。まず初めに、開会に当たりまして、本田修一市長が挨拶を申し上げます。

○ 市長あいさつ

【本田市長】 皆様こんにちは。今日は平成28年度第1回志布志市総合教育会議を開催しましたところ、お忙しい中御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本市の教育推進につきましては、皆様方の御指導と御協力のもと順調に推移してきていると思います。しかしながら、この教育行政においては様々な課題もあるところで、それらの課題解決につきまして、学校・家庭・地域が一体となって推進体制が取られるべきだという趣旨から、国において昨年度から総合教育会議という形で、その方針が示されたところであります。

そのような流れの中で、私どもの市においても、昨年6月1日に第1回目の総合教育会議を開催いたしまして、その中で新たな教育大綱の策定をしていただいたところです。その教育大綱につきましては、高い志と慈愛の精神、志を高める教育の推進を掲げ定められたところです。

そして、志を高める教育が育む志の心をメインにしまして、まず1番目に先人に学び目標を持って努力する心、向学心。2番目に公德やきまりを守る心、公德心。3番目に親に感謝する心、感謝の心。

4番目に高齢者を敬愛する心、敬愛の心。5番目に地域や友だちを大切に作る心、郷土愛。6番目に自他の生命を尊重する心、生命尊重。ということで教育大綱を策定したところでございます。総合教育会議での教育大綱ということですので、このことが現場を預かる教育委員会の方々の進め方について、特段拘束するということではありませんが、このことを念頭に置きながら教育行政の推進をしていただきたいと思います。

今後においても志布志市独自のこういった方針を踏まえながら、高い志と慈愛の精神を持った子どもたちの健全育成が図られるようよろしくお願いいたします。簡単でございますが開会のあいさつとさせていただきます。

【岡崎総務課長補佐】 それでは、会次第3、協議に入ります。

協議の進行につきましては、志布志市総合教育会議設置要領第4条第4項の規定に基づきまして、市長が務めることになっておりますので、本田市長よろしくお願いいたします。

○ 協議（議長：本田市長）

【本田市長】 それでは、協議を進めさせていただきます。

協議の1、確かな学力の定着に向けた取組ということで、はじめにタブレット導入、ICT支援員配置について、2番目にコミュニティ・スクールモデル校について、3番目に小・中一貫教育の研究について、協議を行いたいと思います。

まずはじめに、タブレット導入、ICT支援員配置についての説明をお願いいたします。

【福田学校教育課長】 その前に、全体構想について説明させていただきます。

資料の1ページをお開きください。先ほど市長のあいさつの中にもありましたとおり、志布志市というのは志を高め、慈愛の精神、高い志の推進に向けて取組んでいる市でございます。それに向けまして、全体構想図をお示ししました。これは平成28年度志布志市確かな学力向上第1ステージということで、平成28年度から31年度までを見据えた取組み施策内容でございます。

中心のところには、大きく志の文字を書いておりますが、これに

向けて教育委員会がそれぞれ学校教育、生涯教育の立場から施策を行っていくことにしております。きらり輝く三つのおしえ、これは皆さん御承知ことと思いますが、こういった教えを根底に据えながら、確かな学力をしっかりとどの子にも付けさせたい。そのための施策を示したのがこのリーフレット図でございます。

図の左側には、学習指導を対象とした施策取組みについて記載してあります。それから右側には、家庭教育を中心とした対策施策等について記してあります。

本日のこの会議におきましては、学習指導対策の中の新規取組みとなっております、タブレット導入、ICT支援員配置に関すること、コミュニティ・スクールモデル校に関すること、小・中一貫教育の研究に関すること、このことを学力向上対策にどう機能させていくのかお示しし、皆様方に御意見を頂戴したいと思っております。

なお、その中でキーワードとして三つ書いてあります。触れ合おう、そろえよう、語ろう。その中でも、特にそろえようをキーワードにしながら進めているところです。授業においても家庭においても様々なところにおいて、これを中心に取組んでいるところです。この後、タブレット導入、ICT支援員配置について担当が説明いたします。

【梶原学校教育課参事】 タブレット導入、ICT支援員配置について資料の2ページをお開きください。

タブレット導入、ICT支援員配置の課題と目的ですが、全国学力・学習状況調査結果からでも、国語算数ともに授業が好きですか。との問いに対して肯定的な回答が非常に低く、否定的な回答が多くなってきており、やはり児童生徒の学習意欲を高める部分が何よりも必要であるというところから、この導入を進めております。学力の定着、学力の向上に向けて、児童生徒の興味関心を高めることを第1の目的にしておりますが、その他にも教える側である教師の指導力の向上、指導方法の広がり等も考慮しながら導入を進めております。タブレットを使うことで、興味関心が高まることも文部科学省のイノベーション事業の調査結果からも出ておりますので、興味関心が高まること、これが学習意欲の向上に繋がり、学力向上に繋

がっていくと考え、このタブレット導入を進めているところです。

内容につきましては、ここに書いてあるとおりですが、タブレット導入を進めるにあたり、モデル校グループ、教職員活用グループに分けて今回スタートします。それに伴い、ICT支援員を地域おこし協力隊の中から学校教育課に配置していただき、タブレットの使い方の指導や機器トラブル等への対応を行ってもらうようにしております。

期待される効果と展望については、学力向上、教育の質の向上、というのが第1ですが、教員の公務の負担軽減にも繋がるということで、平成30年度に向けて全小中学校への導入を進めていく計画をしております。詳細なスケジュールを3ページに載せております。

特に9月からタブレットの活用を開始したいということで準備を進めているところです。それに伴い、ICT支援員の増員も計画しており、各学校でスムーズにスタートが切れるように、研修を計画しながら準備をしている段階であります。説明は以上であります。

【本田市長】 ただ今の説明につきまして、御質問はございませんか。

【松原委員長】 先日、学校訪問に行ったんですが、書画カメラについては結構教室で使われていて、見ていると子どもたちの関心もわき、時間的にも随分無駄が省けるなど感じました。書画カメラについては、どこの小中学校でも使われているわけですが、子どもたちは総じて真面目に授業に取り組んでいる気がします。ただ、いまいち覇気がない部分と中々授業に興味をわいてこない部分を見ると、効果が出てくるんじゃないかと思っております。子どもたちはたぶん飛びついてくるんじゃないかという気がしますし、もしかしたら、志布志市に新しく赴任された先生の中にはタブレットを直接買って授業で取り組んだ方もいらっしゃるんじゃないかと、そういう方にリーダーになっていただき、研修とか授業をやっていただいて、みんなで研究するとかいろんなことを積み重ねて、是非見える結果を出していただきたいという気がします。そのためにはいろんな研修を積んでいただきたいと思います。

【梶原学校教育課参事】 書画カメラの活用を実際見ていただいたと思いますが、同じようにタブレットについても効果が見込めると思います。子ども

たちにとって、興味関心が高まる一つのツールではありますが、ただタブレットは情報活用能力を育むことももちろんあるんですが、タブレットを使うことで先ほどありましたとおり、興味関心が高まり授業の活性化にも繋がる。でも一番は言語活動です。思考力・表現力を高めることにも繋がっていくと考えております。タブレットを大型テレビに写してそれを見て発表をすることを、楽しみにする子どもたちもでてくると思いますので、それに伴い言語活動も充実していくということも期待しているところです。

【樽野委員】 タブレットの得意な先生が、この学校にどれくらいいらっしゃるのかということと、その支援員の方で先生たちを中心にした講座を開いてもらって、できるだけ早く慣れていただく方法を取っていただければと思います。先日、授業を見た際に書画カメラだけに集中していて、子どもたちがどういう状態で授業を受けているのかなと、そこまで目の行き届かなかった先生もいらっしゃって出来るだけ慣れるということをしてもらいたいと思います。

【梶原学校教育課参事】 今年から、情報教育担当者研修会を6月と12月に開催することと、ICT支援員も配置されましたので、多くの学校が月曜日に職員研修をしていますので、各学校を訪問して使用についての研修を兼ねていくことも考えております。併せまして、一番の目的は全ての先生がすぐに簡単に使えるということからスタートしていきますので、そのマニュアルをICT支援員と共に作成して、全職員に配布して、誰でもすぐに使える環境を整えていきたいと考えております。

【和田教育長】 目的のところ、子どもたちの学力向上という部分と、もう一つ情報化社会を生きていく上で必要な情報活用能力も、子どもたちは必然的にそういう社会を生きていくということで、情報活用能力をどうしても高めたい。この2つの視点があることを押さえて置きたいと思っています。そして、今回のタブレット導入ということですが、タブレットと併せて書画カメラも学校からの要望が強くありまして、書画カメラもいっしょに入れさせていただいているところで、すごく有難いと思っております。書画カメラであれば、どの先生方も使える状況にありますので、書画カメラとタブレットと両方相ま

ってICT教育を進めていくような体制ができましたので、学習意欲にも繋がると思って非常に有難いと感じております。

【本田市長】 3番目の(3)期待される効果と今後の展望について、3行目にタブレットによる校務の負担軽減というのが書いてありますが、これが具体的にどういったことですか。

【梶原学校教育課参事】 今回は全学校にタブレットを2台から3台導入いたします。本来は、全職員に導入できるのが理想ですが、考えている校務削減とといいますのは、例えば、プリントを授業のとき先生方が準備して、それを配るという作業を、画面で作ったものをタブレットに転送してそれを見て問題を解くという使い方をします。つまり時間の削減というのが一番大きいと思います。また、導入されるソフトを使用しますと、例えば、解った人がボタンを押すだけで職員の手元に情報が入ってくるという使い方もできます。併せまして、教職員活用グループになりますと、児童生徒にはタブレットはなく先生方にしかありません。先生方が職員室のパソコンで作ったデータをテレビに写すためには、パソコンをセッティングしたり電源を入れたりする時間がかかったり、片付けにも時間を要したりします。しかし、タブレットにデータを入れて置くことで大型テレビにすぐに写すことができます。また、突然子どもたちから質問等が出たときに、インターネットの情報をすぐに大型テレビに写すことができるということで、事務的な作業の削減ができます。将来的に全職員にタブレットが導入されると、今度はすぐに様々な文書を検索できるという活用も含めて紙の削減等にも繋がっていき、時間の確保、授業の効率化、最終的には職員の資質向上にも繋がっていくと考えています。

【本田市長】 校務の負担軽減というのは、先生方は報告書等の作成に追われて、授業の準備をする時間の制約があるのかと思ったところで、例えば、報告書作りについては今までのパソコンを活用されていると思ったところで、そういった点からのタブレット活用は考えられないのかと思ったところです。

【梶原学校教育課参事】 いろんな仕事があるというところで、いつでもどこでもネット環境に繋がり校内LANに繋がりますので、どこでも使えます。もちろん今までのノートパソコンもできるのですが、そこまでパソ

コンを持っていかないとできない。そういった作業の軽減に繋がると思っております。今後はより軽減できるように新たなソフト等も紹介しながら、教職員の負担軽減につなげていきたいと思っております。

【本田市長】 タブレット活用については、年次的に導入するとのことですが、そのスケジュールについて教えてください。

【福田学校教育課長】 今回は、記載されている小中学校にタブレットを導入いたします。2年後の他の学校については、現在児童生徒用にリースパソコンを使っていますので、そのリースが切れるタイミングと併せまして、同等の機種を導入する計画であります。ですので今回導入するものにつきましても、使用年数が長くなりますので、長くなっても十分対応できるだけの機種機材を導入し、すべての子どもたちが使えるような形で計画しているところです。

【本田市長】 市当局も財政が厳しい折ですが、子どもたちの学力向上のために、全生徒に配布できるような体制を作りたいと思います。今年度においては、部分的な学校への配置となりますが、是非、積極的に活用されて目指す成果を収めていただきたいと希望するところです。

【本田市長】 それでは、次に参ります。コミュニティ・スクールモデル校について説明をお願いします。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 資料は4ページになります。

まず、課題と目的についてですが、現在本市では学力向上に取り組んでいるところです。また、すべての学校において学校評議委員会、学校評価委員会等で学校の取組を評価していただきながら進めております。ただ、学校を取巻く課題は多様化してきておりまして、必ずしも学校だけでは解決できない課題が出てまいりました。そこで、コミュニティ・スクール制度にすることに依りまして家庭や地域の声、学校経営への参画、そういったことを踏まえていながら、これらの課題を社会総掛りで解決してよりよい教育を実現していこうということを目的としています。

これまで平成27年度、コミュニティ・スクールの導入に向けて準備を進めて参りました。設置規則の作成をいたしまして、各学校

へ、学校課題の解決にコミュニティ・スクールの導入をして取組んでもらえる学校はないかということで呼び掛けをしましたところ、3校がモデル校として導入することになりました。原田小学校、伊崎田小学校、志布志中学校の3校です。この3校におきまして、協議会の委員の人選等をお願いしまして、教育委員会の任命をするという形で今協議会が立ち上がっていくところです。今年度は初年度でございますので、委員の方々に研修を進めていただきながら、学校運営協議会の仕組や予算、どのような活用方法があるのかについて研究していただきながら、今後全学校への導入も進めていきたいと考えております。

これらにつきましては、この1年で他の学校へもお知らせをしながら、是非すべての学校で進めていきたいと思っております。そのことによって、期待される効果と今後の展望についてですが、まず、子どもたちの学びや体験活動が地域の方の協力を得るということで充実していくこと。また同じく地域人材の活用によりまして、学校への応援ができるような更に決め細やかな個に応じた学習指導ができるのではないかとということ。また、地域の協力をいただくということで、教職員が子どもと向き合う時間が今後増えていく、また更に、学校・家庭・地域の信頼関係が深められるようになって、更なる相乗効果が期待できるであろうと考えているところです。

5ページにこれまでの学校評議員会とコミュニティ・スクール、学校運営協議会との違いにつきまして掲載しておりますので、簡単に説明いたします。

まず一つ、校長が作成する学校運営の基本方針を承認していただくような、学校運営に参画していただくことでもあります。また、学校の運営に関しまして、教育委員会または校長に意見を述べることもできることでもあります。最後に教職員の任用に関しまして、協議会で教育委員会に意見を述べることもできるようになります。

このような協議会で、本年度取り組みながら地域の学校運営に参画していただくことによって社会総掛りで教育を進める。このことによって、児童生徒の健全育成が図られると考えているところです。

【松原委員長】

この取組は、いずれどの学校もなっていくだろうと思います。

モデル校の3校は、それぞれの事情があつて手を挙げて取り組むことになったと伺っております。本来のあるべき姿で成果が出ないと、あと2年後に全部の学校で取り組む際に足並みが揃わないのかなと思います。評議員会と違ってくるところがあるので、その辺りの認識を研修等を行っていただいで、支援していただけるよう、是非再来年には全校が足並みを揃えて取り組めるよう頑張りたいと思います。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 これまで、学校評議員会につきましては、各学校にお任せする形で、評議員の方々が御意見等を学校に述べていただくとなっております。運営協議会につきましては、教育委員会の事務局の方もその会議に参加をしまして、意見の吸い上げ等もですが、運営についても助言をして進めていくようにしています。

【和田教育長】 モデル校の原田小・伊崎田小・志布志中が何の目的でコミュニティ・スクールに手を挙げたのか明確な理由があるので、そこが非常に大事だと思います。

原田小学校は、児童数の確保、どうしても子どもたちが野神小に行ってしまう状況があつて、どうしたら児童数を確保できるのか、魅力ある学校を作るにはどうしたらいいのか、ということで原田小学校は手を挙げた経緯があります。

それから、伊崎田小学校は、小中連携ということを視野に入れてコミュニティ・スクールを立ち上げたいということでもあります。

志布志中学校は、たくさんの小学校から生徒が来ます。生徒指導上の課題もたくさんあります。そういった中で地域の方々の協力なしでは落ち着いた学校運営ができないだろうということで、積極的に地域の声を聞いてやっていきたい。そういう想いで手を挙げた学校ですので、それぞれの学校でしっかりとした目的の基でコミュニティ・スクールをやりたいと意思表示をしていただいた。そういう意味では非常にありがたいと思っております。その結果も必然的に出てくると思っております。

【飯野委員】 3校が手を挙げているところですが、運営委員とかは決まっているのかということと、今学期中に開催できるのかということをお教えください。

【福留学校教育課参事兼指導係長】 協議会としましては、人選は済んでおりまして、原田小につきましては早速今度の日曜日からスタートすることになっています。また年間5回程度、どの学校でも開催をする予定であります。

【本田市長】 コミュニティ・スクールについても、モデル校となったところについては、速やかに想定される成果を収めていただきたい。おそらく他地区の保護者の方々が注目されていると思われまますので、このモデル校が順調に進むことによって、他校が前向きに取り入れられるような結果を出していただきたいと思います。

【本田市長】 それでは次に進みます。小・中一貫教育の研究について、説明をお願いします。

【梶原学校教育課参事】 6ページをお開きください。

小・中一貫教育の研究の課題と目的です。平成27年6月24日の法改正に伴い、学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するために、小・中一貫教育を実施する制度が創設されております。

小・中一貫教育の一番の目的としましては、小学校、中学校との格差、いわゆる中1ギャップ等をなくすことでありましたが、学習指導方法の情報を共有して共通実践を図っていくことで、それらが学力向上にも繋がるということも効果的であると考えられております。9年間を通した教育課程を組んでいくことで、地域で9年間子どもを育てていくこと、9年間を見通した特色ある学校づくりが展開できるという非常に効果的な面があります。

例としましては、例えば英語教育に力を入れたいという学校であれば、小学校で行われている英語の授業に、中学校の先生が授業に入っていく、それを9年間の計画で進めていくということが可能となってきます。

逆に小学校の先生が中学校に行って、小学校の先生の専門とする教科を中学校の授業でも教えていくということで人的交流も進んでいきます。また、合同の行事をすることで、小学生が中学生を慕う、中学生が小学生を見守る、といった面でも人格形成が期待できるのが小・中一貫教育の特徴と考えられています。それに伴い、本市におきましてもその実態等を把握しながら、どの学校でどのような展

開ができるか、しっかり見識を深めて、年次的に小・中一貫教育の導入に向けた取組を進めていきたいと考えております。

詳細につきまして次のページをご覧ください。

大きく分けると、校舎の配置が3つあります。施設一体型・施設隣接型・施設分離型とあります。本市における想定型につきましては、伊崎田中学校が施設隣接型に分類されると思います。その他の学校は、施設分離型になります。今回の学校教育法の改正でできたのが義務教育学校であり、左の区分で3つそれぞれに対応することになります。特色としましては、修業年数が9年間で一つの学校ということです。9年間での教育目標・教育課程を設けていき、その中で特色ある学校の運営を進めていくことが特徴です。また、組織として一つの学校ですので校長先生は1人であること、原則教員は小学校と中学校の両方の免許を併有することになります。

一方、小中一貫型もあります。これらも先ほどと同じように、施設一体型・施設隣接型・施設分離型それぞれに当てはまる設置があります。義務教育学校の違いといたしましては、小学校中学校の修業年数がありますが、大きな変革としましては教育課程が9年間となります。少し解りづらいかもしれませんが、小学校6年中学校3年という枠に拘らずに、たとえば、4年・2年、3年といった小中一貫型の学校で、学年ごとのステージを分けて考えて、6年ではなく、4年のグループ、2年のグループ、3年のグループなどに分けて9年間の教育課程に分けて進めていくのが特徴となります。組織につきましては、これまでの小学校中学校と変わらない形となります。これらのケースを基に、先ほどありましたコミュニティ・スクールの事業と並行して進めながら、先進地等の情報も入手し、各種研修も入れて、一つずつクリアをして年次的にはすべての学校で小中一貫教育を考えられるように取組んでいきたいと思っております。本年度6月には、各中学校区で小中連携のあり方、小中一貫型のあり方について会議を開く予定になっています。また、学校から得られた情報を基に、その長所や問題点等を精査しながら、子どもたちの育成のためにこの小中一貫を進めてまいりたいと思っております。

【松原委員長】 施設隣接型ということで、伊崎田中学校区が一番可能かなと思

ます。この地域は3年ほど前からこれを見込んでの小中連携ということで、子どもたち同士の交流もあったり、いっしょに授業をやったりして、その下地があるのかなと思います。そういった意味で考えると、どこかで年数を区切って、いつまでにはどうするんだというスケジュールを立ててもいいのかなという気もいたします。

義務教育学校にするか小中一貫型にするかは、今後検討していけばよいかと思いますが、この辺りからスタートするのが良い時期かなとは思いますが、他の中学校が4校区ありますけど、コミュニティ・スクールなりの事業をテーブルに挙げて、環境を造成していかないといつまでも研究のままで前に進まないと思います。

また、先生方も変わるということもあって、誰に代わっても継続して進んでいかないと、この小中一貫教育というのは進んでいかないとしますので、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

【福田学校教育課長】 今御意見がありましたとおり、研究だけではなく2年後には確実に小中一貫教育校としてスタートできるような形を整えていきたいと考えます。そういった意味で、本年度も様々な形で成果としてどういうことが見込めるのか、どういう体制が整っているのか等を見極め、他府県の状況等も参考にしながら進めたいと思います。また、小中一貫教育実践概要（資料）も届いておりますので、これを見ますと本市のこの学校区だったら比較的早くに導入できるのではないかと見えていきますので、道筋を立てて進めていきたいと思います。

【樽野委員】 伊崎田地区が小学校中学校の交流などに取り組んでいるということですが、今年度から運動会などの行事を合同とする計画等は聞かれていないのか教えてください。

【梶原学校教育課参事】 小学校中学校の運動会については、来年度から合同で開催することになっています。

【和田教育長】 小中一貫教育を進めるにあたって、子どもたちのメリットと先生たちのメリットの両方があると思います。小学生は、お兄さんたちといっしょにいろんなことができる憧れがあるだろうし、中学生にとっては、下の子どもたちに対する指導等を行って自分自身を高めるなどのメリットがあると思います。先生たちは、お互いの授業を

相互に見合うことによっていろいろなことを学べる。例えば、中学校の理科の先生が小学校の理科に入ることによって、より専門的な指導を受けることができる。小学校の先生が中学校に行くことによって、小学校の先生方の丁寧な授業を見ることができますので、資質向上を図れるなどのメリットがありますので、そういったことを総合的に考えながら小中一貫教育を進めていく必要があると思っています。

【島津委員】 聞いていると良いことばかりのような印象があるんですが、県内でも既に導入している学校等があつて、やっつけてしまえばすぐ導入できそうな気がしますが、導入にあたっての問題点等はないのか教えていただきたいと思います。

【梶原学校教育課参事】 全国的な調査結果がでておりますが、教員の多忙感が非常に増えたとあります。教員の仕事は忙しいと言われますが、特に小中一貫教育を実践している学校ではより増えたという数字がでております。それから法律的な問題でいいますと、小学校中学校それぞれの教員免許がないと授業ができない、もちろんアシスタントとして入ることもできるのですが、やはり授業時数等が増えると負担になるということで法的な問題もあげられています。その他9年間の一貫教育で取り組むからこそ数値的な結果を求められるため、そのことが負担となり充実した教育活動に意識を向けることができないことがあるようです。ただ、先ほどもありましたように、すぐに取り組める地域もあるかと思います。先ほどからでております伊崎田地区についても、9年間の計画をしっかりと立てることが大事になりますので、その作業を負担に感じるのであれば、それを少しずつ解消していけるよう、計画的に取り組んでいく必要があります。なによりも一番感じているのは、負担や多忙感を改善できる方法をこちらの方から示していきたいと考えております。

【飯野委員】 立地的な条件を考えたら、伊崎田が隣接で良いと思うんですが、生徒数を見たときに増えていくのかなと思います。生徒数が段々減ってきたときに、小中一貫教育の対応は大丈夫なのかと考えてしまいますが、そういうところはどうなんですか。

【梶原学校教育課参事】 たしかに、生徒数の減少はネックになるのかなと感じてお

ります。薩摩川内市におきましては、東郷地区で平成 31 年に小学校も中学校もまとめた施設一体型小中一貫教育校が開校する計画となっています。薩摩川内市では、小さい学校でも小中一貫型を計画しておりまして、人数等を考慮しながら取り組んでいますので、参考にして進めてまいりたいと思います。また、そういった意見がコミュニティ・スクール等でもでてくると思うので、話し合いを重ねていく必要があると感じているところです。

【福田学校教育課長】 本市の小規模校においては、まずはコミュニティ・スクールをやっていただくことになっていて、自ずと小中一貫教育のことも視野に入れつつ保護者や地域の方々も考えていかれるのではないかと考えているところです。地域から学校がなくなったりするデメリットだったり様々な意見の方も出るでしょうけど、一方でいくらかの人数を達成することによって教育効果が上がるのではないかという意見を持っている方もいらっしゃる中で、早々に結論を出すことはできません。どういうことが将来的に想定できるのか、そのことが志布志市にとってよい状態に繋がっていくのか、実は教育だけの問題とは言えないところもあり、様々な側面から一体となって皆さんの知恵をお借りしながら考えていくことが必要ではないかと思っております。

【和田教育長】 先ほどの多忙感というところですが、何が多忙感を感じるかといいますと、たとえば、合同で授業をしましょうとなったときに、事前の打合せを何回かしないといけないことになります。授業というのは今まで一人でやっていた授業を相手が来て授業をするわけですので、綿密な打合せがないとできない。そのための打合せの時間が必要となり、今までにない負担感というのを感じる。だから、先生方がそういうことを理解したうえでスタートしないと負担感というのはもっと増してくると思いますので、こういう良さがあるのががんばりましょうという意識でもっていかないといけないと思います。そこら辺りをしっかり踏まえたうえで小中連携を進めていく必要があると感じています。

【本田市長】 私自身は、小中一貫校の実現については、平成 29 年度だったんですが、やっと総合教育会議がスタートして本格的な話ができるよ

うになったということで、2年かけていただければ十分準備期間は取れるということで、平成30年度当初にスタートしていただきたいと考えているところです。それまでに十分議論を尽くしていただいて、この小中一貫教育については先進地がございますのでその先進地等を勉強していただいて、考えられる不安等を取り除いた形でスタートができるように、質の高い小中一貫教育をスタートできるようにしていただきたい。そして、学校設備の改修計画が入っておりまして、このことについても、小中一貫を睨んだ形で施設整備についても示させていただきたいということでもあります。

それから、生徒数122人ということで大丈夫なのかと意見がありました。このことについても、しっかりとした定住化政策を導入いたしまして、この地域にもたくさんの方々が住んでいただけるような環境を積極的に創っていきたいと思っています。平成29年度には、都城志布志道路の有明工区間が完成して、30年の2月にはオープンになると思いますので、そうなれば、更に利便性が高まり多くの方々があそこに住んでみたいということが考えられると思いますので、定住化については積極的に対応してまいりたいと思っています。ということですので、今122人が生徒数となっていますが、これより増やす努力をしてまいりたいと思います。

小中一貫教育は、本市においては事例がないわけで、こういった形になるか不安な面もあると思いますので、十分情報等を公開していただいて、みんなが早めに対応できるような環境を創っていきながら進んでいただきたいなと思ったところがございます。

【本田市長】 それでは、(1) 確かな学力の定着に向けた取組についてはこれで終わります。(2) その他、何かございますか。

【和田教育長】 1ページの資料をご覧ください。先ほど学校教育課長が説明いたしました。今回の確かな学力の定着に向けた検討委員会を進めるにあたっては、基本的な考え方として、学校教育課だけでなく、教育総務課も生涯学習課もいっしょになって取組むというスタンスで取組をしました。

今日議論していただいた左側の学校教育に関わる内容でしたが、右側にも大事なポイントがありまして、今回話題にはしませんでし

たが、生涯学習課が中心になって、「志アップ子育て手帳」というのを作成しております。全児童全保護者に配って、家庭の教育力を高めていきたいと思いますという視点での取組をしておりますので、学校教育課・生涯学習課・教育総務課の施設の改善等も含めて、総合的にやっていく視点で取組んでおりますので、是非共通理解をしながら取組んでいきたいと思っております。

【樺山生涯学習課長】 4月7日に2,500部、各PTA、幼稚園、小学校、中学校の各家庭に配布して、配布だけでなく活用してくださいという段階にきているところです。

【本田市長】 他にございませんか。それでは、無いようですので、以上を持ちまして協議を終了いたします。

○ その他（岡崎総務課長補佐）

それでは、会次第4のその他ということでございますが、協議事項以外に皆様方から何かございますか。よろしいでしょうか。

【本田市長】 次回開催は、いつごろの予定ですか。

【岡崎総務課長補佐】 当初予算編成前の、11月初旬を予定しております。

○ 閉会（岡崎総務課長補佐）

それでは、御起立をお願いします。

これを持ちまして、平成28年度第1回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。一同礼。

午後4時10分 閉会